

令和 8 年度 県立病院等事業会計当初予算（案）のポイント

令和 8 年 2 月
岩手県医療局

令和8年度事業運営方針（案）

厳しい経営環境のもと、診療報酬改定の効果等を最大限に取り込みつつ、DXによる労働生産性向上の取組や将来に向けた投資を着実に行い、県民が県立病院に求める役割を着実に果していく

《経営計画に掲げる5つの基本方向ごとの主な重点取組事項》

1

地域の医療需要の動向を踏まえた県立病院の機能分化と連携強化

- 県民に県内で高度・専門医療を安定的に提供できる体制を確保
- 民間医療機関が立地しにくい地域では、県立病院が身近な医療を継続して提供 等

2

良質な医療を提供できる環境の整備

- 病院の施設・設備の計画的な更新、高度医療器械の重点整備
- オンライン診療の拡充、AI・RPA等による業務手法の見直し、DXによる医療現場の労働生産性の向上 等

3

職員の確保、育成と魅力ある勤務環境の整備

- 中堅層医師の確保、医師の地域・診療科偏在の解消に向けた関係機関との連携と取組の推進
- 薬剤師等、不足する職員確保に向けた取組を進めながら、少ない人員であっても良質な医療を提供できるための環境を整備
- 魅力ある勤務環境の整備に向けた働き方改革や公舎整備 等

4

職員の適正配置

- 各病院の機能分化と連携強化の方向性を踏まえた職員の重点配置
- 病床規模等を踏まえた職員の適正配置
- 事務・業務の本庁集約の推進による病院の業務負担を軽減 等

5

持続可能な経営基盤の確保

- 診療報酬改定効果の確実な取込みや新規・上位施設基準の取得による診療単価の向上
- 新入院患者の受入強化、DPC分析によるクリニカルパスの見直し等、費用削減の取組の徹底
- 給与費の適正化、薬品・診療材料の廉価購入等、費用削減の取組の徹底
- 不採算医療に係る地方財政措置の拡充、診療報酬改定の影響等を踏まえた国への要望 等

令和8年度県立病院等事業会計当初予算（案）の概要

1 予算の内訳

(1) 患者数

区分	令和8年度 当初	令和7年度 当初	比較
入院患者数	1,137,000	1,114,000	23,000
外来患者数	1,593,000	1,644,000	△51,000

(2) 収益的収支

区分	令和8年度 当初	令和7年度 当初	比較
収 益 A	121,503,936	119,445,404	2,058,532
うち医業収益 a	103,024,481	101,114,998	1,909,483
うち入院収益	67,481,739	64,942,442	2,539,297
うち外来収益	29,486,789	30,030,523	△543,734
うち医業外収益	18,479,455	18,330,406	149,049
費 用 B	124,779,685	122,937,781	1,841,904
うち医業費用 b	122,575,976	120,667,211	1,908,765
うち給与費	65,498,279	63,263,992	2,234,287
うち材料費	29,912,424	30,067,311	△154,887
うち経費	18,654,825	18,718,902	△64,077
医業損益 (a-b)	△19,551,495	△19,552,213	718
差引損益 (A-B)	△3,275,749	△3,492,377	216,628

(3) 資本的収支

区分	令和8年度 当初	令和7年度 当初	比較
收 入	14,003,417	15,340,796	△1,337,379
支 出	20,853,385	22,031,194	△1,177,809
(1)建設改良費	8,082,858	9,162,235	△1,079,377
(2)企業債償還金	11,256,927	11,350,559	△93,632
(3)他会計からの長期借入金償還金	1,000,000	1,000,000	0
(4)投資	513,600	518,400	△4,800
差引(内部留保資金充当)	6,849,968	6,690,398	159,570

2 収益的収支予算の主なもの

(1) 医業収益

人口減少等により外来患者数は一定程度減少すると見込むものの、救急や地域の医療機関と連携を強化し、新入院患者を積極的に受け入れるなど、県立病院に求められるニーズに丁寧に対応するとともに、診療報酬のプラス改定の影響や上位・新規施設基準の取得等により診療単価を向上させ、1,909百万円程度の増収を見込んでいます。

(2) 医業外収益

救急、小児、周産期医療に係る地方財政措置の拡充に伴う単価増等により、149百万円程度の増収を見込んでいます。

(3) 医業費用

令和7年度給与改定に伴う給与費の増加等により、費用全体の増加は避けられないものの、医療現場のデジタル化による業務手法の見直し、院外処方の推進、エネルギーの消費量削減等、材料費・経費の効率的な執行により費用の抑制に努めています。

ア 給与費 65,498百万円 (前年度比 2,234百万円)

イ 材料費 29,912百万円 (前年度比 △ 154百万円)

ウ 経費 18,654百万円 (前年度比 △ 64百万円)

3 資本的収支予算の主なもの

(1) 建設改良費

釜石病院をはじめ施設等の計画的な更新に係る費用や、高度・専門医療の充実に向けた医療器械等の重点整備に係る費用等を計上しています。

ア 釜石病院新築工事 (基本設計) 47百万円

イ 中部病院サイバーナイフ棟整備工事 510百万円

ウ 放射線治療外照射装置等医療器械購入費 3,708百万円

(2) 投資

計画的な医師養成を目的とする医療局医師奨学資金貸付金として、513百万円を計上しています。